

## 1 実践の概要

<b>実践校</b>	県立由利工業高等学校
<b>タイトル</b>	近接する保育園および近隣住民との合同減災訓練
<b>実施月日（曜日）</b>	平成23年10月21日（月）
<b>実施場所</b>	由利工業高等学校 校舎
<b>想定 場面</b>	10:00 ~ 10:30 災害発生後、避難所設営の初期対応を想定
<b>参加者</b>	園児127名、生徒413名、保育士13名、教職員61名、地域住民約40名

## 2 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦労した点●
<p>1 事前打ち合わせ</p> <p>7月27日（水）「地域防災連絡協議会」（18名） 西保育園長、主任、保育士4名。 赤冗・若葉町内役員5名。 町内自主防災組織会員2名。 校長、教頭、事務長、総務副主任、教務主任。</p> <p>9月10日（土）市地震津波避難訓練 市全域で、6:30、消防団の指示により、住民が指定場所へ避難する訓練が開始された。本校グラウンド等が指定場所となっている。 校長、教頭、総務主任（立ち会い）</p> <p>2. 地域合同減災訓練</p> <p>10月21日（月） 9:55大地震が発生し、大津波が予想されるため、保育園児、住民が本校に避難を開始した。避難所を設営するため、生徒は必要物品を検索し集結した。園児に避難を確認し、住民リストの作成を行った。保育園・高校・町内に関わる減災マニュアルを確認し、生徒には講話を行った。</p> <p>3. 平成24年度の実践（参考）</p> <p>7月26日（木） 第二回 地域防災連絡協議会（15名） 由利本荘市危機管理監も参加</p> <p>10月21日（月） 第二回 地域合同減災訓練 （荒天により園児は中止）</p>	<p>○本校が幹事となり会合を提案したところ、ふだんから交流のある保育園の職員6名、近隣町内の役員7名が参加してくれた。校舎内をみてもらい、避難経路等の検討をしてもらった。市の訓練にも立ち会い、近隣の住民がグラウンドに避難するまでの所要時間は約15分程度ということがわかった。</p> <p>○保育計画（給食・午睡など）および工業実習の指導計画（工場棟の稼働スケジュール）に配慮して実施する曜日を確定した。今後は、抜き打ちの訓練の実施も検討している。</p> <p>○生徒の減災意識を助長するために、宮城県石巻市における震災直後の避難所についてDVDを作成し、授業を活用して指導した。</p> <p>○学校のなかにある避難所物品となりうる備品および保健室の備品在庫をリストアップした。</p> <p>●大震災での教訓から策定された「避難所開設マニュアル」等を検討しつつ、全職員へ周知徹底させることに難渋したため、最もシンプルな方法で説明するように心がけた。</p> <p>●対象園児は3～5歳児であるが、3歳未満の園児をどのようにして避難させるのか話題になった。高校校舎の設計上、園児・高齢者への対応にはなっていないため、階段の隙間から見える空間は、園児に恐怖心を想起させることがわかった。</p> <p>●「回覧板」で全世帯に訓練の実施を通知したが、参加予定者数の見当がつかなかった。</p>

連携先	団体名・組織名	連携の内容
学校・教育関係・同窓会等	・石脇西保育園	・事前打ち合わせ 避難区画・誘導・定員規制・避難所物品
保護者・PTA関係		
地域組織	・赤冗町内 ・若葉町内 ・松濤町内	・事前打ち合わせ 避難区画・誘導・住民リスト
国・地方公共団体・公共施設	・由利本荘市危機管理課	・事前・事後打ち合わせ ・最新の知見を助言してもらった
企業・産業関係の組合等		

### 3 成果と課題

<b>成 果</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域との連携により、校舎内外の避難経路、必要な物品を運搬・集結について、相互の情報を共有することができた。</li> <li>2 住民・園児・生徒の行動がスムーズになった。</li> <li>3 住民からよせられる要望がより高度になってきた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・収容可能人員は何名か、炊きだしは何食分可能か。</li> <li>・町内で防災袋を準備している世帯は10%に満たない。</li> </ul> </li> <li>4 風力発電による蓄電システムおよび発電機を設置することができた。(PTA安全互助会の解散による資金を活用した。限られた財源のなかで、PTA会計等で各校独自に工夫する必要がある。)</li> </ol>
<b>課 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害に遭遇しても地域に貢献できる生徒（社会人）の育成が最大の課題である。</li> <li>2 避難所の機能として、48時間程度の生活を想定した場合、今後、整備する必要のあること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料の備蓄　・粉ミルクや紙おむつ等の育児用品の備蓄　・介護用品の備蓄</li> <li>・負傷者及び要介護者への対応</li> </ul> </li> <li>3 蓄電システムおよび発電機等操作の慣熟</li> <li>4 授業日に全職員が出動していることを前提に訓練したが、登下校時・週休日等についても検討する必要がある。</li> <li>5 東日本大震災から時間が経過するにつれて、減災行動や訓練に対する切実性が希薄になってきている。</li> </ol>
<b>今後の継続予定</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の生徒は三年間を通じて、避難所設営・災害弱者の誘導・生活に必要な物品の搬入を学ぶことになる。</li> <li>2 地域と連携した減災行動ができるよう、今後も様々な場面で住民・保育園との交流を継続する。</li> </ol>

